

五郎沼通信

COCOAR対応

第7号 平成27年2月1日発行

この通信は、五郎沼の桜や周辺環境を守りながら、五郎沼の活用方法や今後のあり方を地域の皆さんと考えるために発行します。
(発行部数:200部)

発行者：「五郎沼の桜を守る会」
事務局 瀬川峰雄
紫波町南日詰字小路口70-1
電話：019-672-2656 (FAX兼用)
携帯：090-2270-6771
E-mail：shiwajokaso@crest.ocn.ne.jp

COCOAR ARアプリでCOCOARロゴ指定写真をかざすと動画が見れます。



会員と地元の方々による、施肥作業の様子



昨年11月8日に会員のみなさんが、特に弱っていると思われる、沼の西側堤体の桜への施肥作業をしました。当初は即効性の化学肥料を考えていましたが、日詰駅前の会社で、大変植物の生態に詳しい知識も持っている、東北ライフ商事(株)さんより今回は指導を受けました。

自然の堆肥

「落ち葉」を土に！

桜には自然の堆肥として、町内の里山の広葉樹(どんぐりが主)の落ち葉を、直接、桜の根付近に敷込みました。土中には元来、養分があり、それを微生物の力で再生していくために落ち葉が「微生物の住処」になり微生物が繁殖しやすくなります。自然の里山が再生されて育っているのはこのような循環の仕組みがあるからだと言えます。また、桜が元気になってくれると祈って作業しました。



根元近くを深さ30cmほど掘って、落ち葉を敷込んで様子



比爪復元 大想像図

〜 県立博物館学芸員 羽柴直人氏より 〜

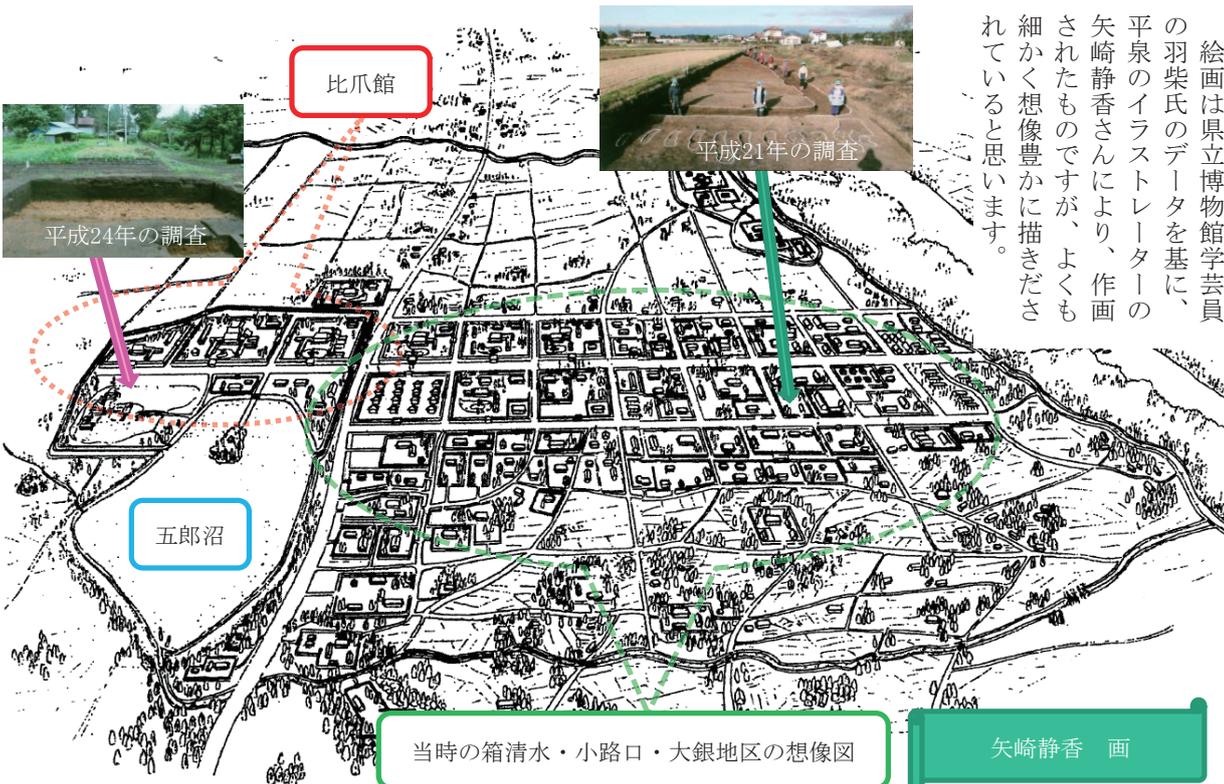
絵画は県立博物館学芸員の羽柴氏のデータを基に、平泉のイラストレーターの方の矢崎静香さんにより、作画されたものですが、よくも細かく想像豊かに描かれています。



平成21年の調査



平成24年の調査



当時の箱清水・小路口・大銀地区の想像図

矢崎静香 画

五郎沼の渡り鳥

オナガカモ・ハクチョウ

○オナガカモ

名前のとおり、尾の長いカモ。メスはちょっと地味ですが、オスの尾は長くスマートです。頭がチョコレート色で、胸から首すじにかけて白。水面にさか立ちしてエサをとるかっこうはとてもユーモラスです。鳴き声はプリップリッ、ピューなどです。



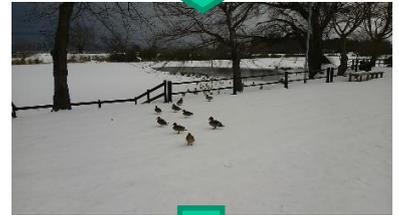
メス



オス



▼人なつっこい渡り鳥▼



だんだん近寄って来ました



COCOAR対応

○ハクチョウ



カモ科の7種の水鳥の総称。シベリアやオホーツク海沿岸で繁殖し、冬季は温暖な日本などへの渡りをおこない越冬する大型の渡り鳥です。現生の空を飛ぶ鳥の中では最大級の重量を有しています。おとなしいイメージもありますが、子育て中の野生個体は警戒心が強くなっており、雛を捕まえようとした人間を追い払う例も報告されています。

日本語のハクチョウは、文字通り「白い鳥」という意味ですが、名称に反してハクチョウ属には「黒い鳥」である「コクチョウ」も存在します。

寿命は野生で最長20年ほど、飼育状態では20年～30年ほどです。

※日本におけるハクチョウ

日本にはオオハクチョウとコハクチョウが越冬のために渡ってきて、北海道や本州の湖沼、河川等で過ごします。晩秋から初冬に渡来し、春には飛去します。

現在は「白鳥」という漢名が一般的ですが、「くぐい(鵠)」の古称をもち、「日本書紀」垂仁天皇の条などに記載があります。ヤマトタケルは、死後、白鳥になったという伝承があり、日本では古くから親しまれている鳥です。

ちなみに「優雅に泳ぐ白鳥も水面下では激しく足を動かしている」というフレーズが、漫画『巨人の星』で作中の人物の台詞として語られた事から有名になっていますが、これは作者の梶原一騎による創作であり、実際にはそれほど激しく足を動かしている訳ではないです。実際にハクチョウが水面に浮かぶ原理は、ハクチョウを含む水鳥には尻に油脂腺というものがあり、そこから分泌される油を羽繕いで羽に塗りつけ、撥水性を持たせています。またそれによって羽毛の間に空気を溜められるようになり、それが浮き袋の役目を果たしています。(ウェキペディアより)



.....お知らせ.....

紫波郷土史同好会 平成26年度第7回研修会
「平泉政権と比爪一族」
～平泉型『安全保障』と奥羽の平和～

平泉政権は、武力ではなく交易の管轄、利益の保証、所領の安堵そして平和の実現をもって奥羽地域を統合しました。

この平泉政権の北奥支配の核とそれを担った比爪一族を中心に概観します。

日時：平成27年2月28日(土) 午後1時30分～

場所：オガール 大ホール

講師：弘前大学教授 斉藤利男先生

参加：郷土史同好会会員以外でも参加できます。紫波町の歴史や奥州平泉に興味のある方、この機会に歴史を学ぼうという方の参加大歓迎。会員以外の参加費は500円。



昨年:左(西)側に傾いてました



本年:真っ直ぐになりました

夜泣き石の傾きが
真っ直ぐになりました

五郎沼の「夜泣き石」の傾きが治りました。昨年までは石自体が重くまた、土台が弱かったためと思えますが、東日本大地震以降、何回かの地震・余震が重なり、だいぶ西側に傾いていました。

近所の箱崎一男さんが、教育委員会に話しをしてもらったところ、昨年中に左下のように、真っ直ぐにしてみました。